

1年生 高大連携授業 1月17日(火)

題目「災害はなぜ起きるのか、どうすれば防げるのか」

兵庫県立大学 減災復興政策研究科

准教授 紅谷昇平先生

1 授業内容

(1)概要

今回は災害の定義から考え、私たちの生活へのプラスとなるようなお話をいただきました。

(2)具体的な内容

●進路について

- ・大学→社会人という王道的なコース以外も考える
- ・先生は大学院に計11年間
- ・社会人になっても学び直せる

- ・日本(特に関東)はプレート境界が集中している
- ・原理的に自然現象である地震を回避することは不可能である。よって対策すべきは地震ではなく震災

●日本と地震について

- ・そもそも地震被害は予測しづらい

- ・震災を対策するためには社会の脆弱性を小さくする

●地震で命を守るためには

①地震直後

- ・日本の古い木造建築は耐震性が低く、窒息・圧死しやすい
- ・阪神淡路大震災ではこれが死因の大多数

③三日後以降

震災関連死について

- ・2004年の中越地震では直接死の3倍以上
- ・避難所での衛生面や被災者の経済的支援が大切
- ・新潟県が改善した結果、2007年の中越沖地震では関連死4人にとどまった
- ・避難が遅れることでリスクが飛躍的に上昇

②三日後以内

- ・主に津波・火災など
- ・それぞれ東日本大震災や関東大震災では死因のほとんどを占めた
- ・避難が遅れることでリスクが飛躍的に上昇していく
- ・共助中に亡くなるケースもある

●水害について

- ・河川氾濫と土砂災害両方に気をつける
- ・既に氾濫している場合、水平避難よりも垂直避難のほうが安全
- ・危ないと感じる前に、早めに避難すべき
- ・避難とは「安全を確保する」こと

- ・日本の防災対策が徹底されれば被害はぐんと減る
- ・首都直下地震では、耐震化率100%なら死者9割減と推計
- ・防災意識を高めるには、守りたいものを増やすことが重要

●災害対策について

(3)感想

今回の講義で防災に対してのイメージがガラッと変わった。特に、僕は、防災は災害の威力を軽減することばかりだと思っていた。しかし、実際には、災害は社会の脆弱性を軽減していくような極めて地道で基礎的な対策だった。防災はすぐには効果が出ず、難しいところもあるが、大切なものを守るためにも頑張っていきたい。 記録者：1年3組16番 藤井 悠成 1年5組15番 中井 翔一朗

